

植物こぼれ話

— 刺がある・ハリアサガオ —

廣田伸七

全国農村教育協会が明治以降に外国から入った帰化植物630余種を収録した「日本帰化植物写真図鑑」を刊行したのが平成13年(2001年)7月である。この図鑑では一過性のものや特殊なものは除いて、当時問題になっていた主要種630余種を取りあげたので殆どの帰化植物を調べることができた。それから9年が経過した。この間、年毎に新しい帰化植物が増え、平成22年(2010年)現在では約1,300種もの帰化植物が記録されている。こうしたことから最近では、平成13年発行の「日本帰化植物写真図鑑」では分からない帰化植物が多くなって困っている。早く続編を発行してくれという要望が多く寄せられるようになった。この要望に応じて続編として、新しい帰化植物約480種を収録した「日本帰化植物写真図鑑・第2巻」を平成22年夏までに発行予定で目下編集集中である。

今回の第2巻には将来問題になりそうな種もかなりある反面、面白い植物も多く含まれている。そのうちの一つハリアサガオを紹介する。

ハリアサガオ (*Ipomoea turbinata* Lag.)
 〈ヒルガオ科〉熱帯アメリカ原産の一年生草本。茎は分岐して長さ1m以上になり、葉は長い葉柄があり卵形〜心臓形で全縁。夏から秋にかけて直径5cm前後で淡紅紫色のアサガオ形の花を別名アカバナヨルガオと呼ばれるように夜間に開くという変わりものである。しかしもっと変わっているのは、茎や葉柄にバラの刺に似た針状の突起ができることである。写真で見ると如何にも触ると痛そうだが、実は軟らかくて触っても痛くないという愛嬌もある変わったアサガオの仲間である。本来は観賞用として渡来したのが逸出して野生化している。



▲茎や葉柄に刺がある



▲花は直径5cm位で、夜開く

財団法人 日本植物調節剤研究協会
 東京都台東区台東1丁目26番6号
 電話 (03) 3832-4188 (代)
 FAX (03) 3833-1807
<http://www.japr.or.jp/>

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小川 奎
 発行人 植調編集印刷事務所 元村 廣司

発行所 東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
 植調編集印刷事務所
 電話 (03) 3833-1821 (代)
 FAX (03) 3833-1665

平成22年2月発行定価525円(本体500円+消費税25円)

植調第43巻第11号

(送料270円)

印刷所 (株)ネットワン